

「定期接種化が検討されているワクチン」

帝京大学医学部附属溝口病院小児科 渡辺 博

現在定期接種化が検討中の小児対象ワクチンには、おたふくかぜワクチンとロタウイルスワクチンがあります。おたふくかぜワクチンは2017年現在で世界の国連加盟194か国中121か国で定期接種化されています。先進国でおたふくかぜワクチンが定期接種でないのは日本だけともいわれています。最近はおたふくかぜの自然罹患後1,000人に1人ほどの割合で永続性の難聴が後遺症としてみられることも注目されています。日本耳鼻咽喉科学会による2015-2016年ムンプス流行時の全国調査で359名の新たなムンプス難聴症例が見出されたとの報告も関心を集めています。ムンプス難聴予防のためにもおたふくかぜワクチン定期接種化が必要です。

ロタウイルスワクチンは2017年現在で世界の国連加盟194か国中91か国で定期接種化され、6か国で定期化予定となっています。わが国では2011~2012年に発売開始されましたが、現在も定期接種に含まれていません。ロタウイルス胃腸炎は乳幼児期の感染性胃腸炎の中で頻度が高く、また最も重症化しやすいと考えられています。海外ではロタウイルスワクチン接種に伴う重症化予防効果や入院抑制効果、さらには成人層に対する集団免疫効果も確認されています。国内でも公費助成が実施されている地域から同様の報告がなされています。ワクチン接種に伴う腸重積発症リスク増加の把握等のため定期化が遅れていますが、0歳児保育も広がる中、早期の定期化が望まれます。

最後にDPTワクチンの話題です。DPT-IPV4種混合ワクチンの普及とともにかつての3種混合ワクチンは姿を消しましたが、2018年にそのうちの1つが、新たに2回目以降の追加接種の適応を取得して再発売になりました。まだ定期の2期dTワクチン接種の代わりに定期接種として使えるよう定められていないため今は定期接種として使えません。しかし百日咳ワクチン含有の追加接種用ワクチンとして使用可能なワクチンが1つ登場した意味は大きいと思います。今後、遅れているわが国の百日咳対策の改善に役立つものと期待されます。